

第72回 通常総会 会長挨拶

公益社団法人 日本獣医師会

会長 藏内 勇夫



本日は、第72回通常総会に大変お忙しい中にもかかわらず、全国の55の地方獣医師会の皆さま、特に日本獣医師会が日頃から大変にご理解、ご指導を賜っております来賓の皆さま方にご出席をいただいて開催できますことに対し、厚く御礼申し上げます。

特にご来賓として、農林水産大臣の林 芳正先生に出席いただく予定でしたが、国会参議院の決算委員会に全閣僚出席ということになり、代理として農林水産大臣政務官の中川郁子先生にご出席をいただいております。また、自由民主党獣医師問題議員連盟会長で衆議院議員の麻生太郎先生の代理として、獣医師問題議員連盟事務局長で衆議院議員の北村誠吾先生にご出席をいただいております。

なお、農林水産省消費・安全局長の小風 茂様、環境省自然環境局長の塚本瑞天様、厚生労働省医薬食品局食品安全部長の三宅 智様、文部科学省大臣官房審議官の佐野 太様、公益社団法人 日本医師会会長の横倉義武様の代理として副会長の今村 聡先生、公明党獣医師問題議員懇話会会長で衆議院議員の斉藤鉄夫先生、民主党獣医師問題議員連盟事務局長で衆議院議員の玉木雄一郎先生、公益社団法人 中央畜産会常務理事の宮島成郎様、また、当会の顧問であり日本獣医師政治連盟委員長の北村直人先生初め、多数の皆さま方にご出席いただきました。日頃のご指導、ご支援に重ねて厚く御礼を申し上げます。誠に有り難うございます。

私ども役員一同、早いもので一期2年の任期を終わろうとしております。

私は先程、獣医師の誓いを皆さまと一緒に朗読いたしましたように、われわれ獣医師の抱える問題は非常に多岐にわたり、獣医学の教育、獣医療、動物愛護、食の安全、環境の保全、人間の健康を支えるといった問題を解決するために、本会に設置をいたしました7つの常設部会・委員会で、常時協議を重ねてまいりました。

しかし、いずれも大きな課題ばかりで、これを解決し、前進させるためには、何と申しましても日本獣医師会と地方獣医師会が表裏一体の関係であるべきで、それは対話を重ねる中でお互いに情報を共有し、同じ問題意識と価値観を持って、ともにアクションを起こすことによって、問題の解決につながると申し上げ、実行してまいりました。

この間、全国獣医師会会長会議に常任の正副議長を設置させていただき、埼玉県の高橋会長、三重県の三野会長が正副議長として、地方獣医師会に大きな運動を起こしていただきました。その大きな成果として、獣医学教育の整備充実、あるいは地方公務員の処遇改善、医師会との学術協定等に大きな前進をみる事ができました。

また、今申しあげました課題はすべて政治的に乗り越えなければならないものばかりであります。つまり、公益社団法人化した日本獣医師会といたしましては、日本獣医師政治連盟との役割を区分することによって、より強力な政治力を持って、日本獣医師会と日本獣医師政治連盟とが車の両輪となり、これらの政治的な課題に対処していくことを決定したところでございます。北村直人先生に曲げて委員長にご就任いただきました。今、国で論議がなされております成長戦略特区における獣医学系大学新設の問題に対して、ほぼ常時、自民党あるいは関係省庁との協議を重ねていただいているところであります。麻生太郎副総理、下村文部科学大臣、そしてわれわれにとって最も関係の深い林農林水産大臣等とも会談を重ねさせていただきました。この問題はまだまだ予断を許しません。後ほど、北村委員長から近況報告をいただきますが、われわれもそれなりの覚悟を持ってこのことに対応しなければなりません。

そういった中、われわれは与えられた2年間の中で、特にスピード感を持って一つの方向性を見出さなければならない重要な課題につきましては、優先的に会長直轄の特別委員会を設けさせていただきました。これは、獣医師の偏在、職域の偏在等で地方に獣医師が足りないという問題に対応するために、女性獣医師の就業支援活動を行うということが一つであります。

また今日、越境感染症についてはきわめて危険な状況でございます。これを防止するためには、医師会と獣医師会とがより連携を密にし、これまで以上にサーベイランスを確立し、防御しなければならないことを考え、医師会との連携を行うための特別委員会を設けさせていただきました。

さらに、具体的な一つの課題といたしまして、狂犬病予防体制の再構築、これは日本獣医師会の中にもいろいろ意見がございました。しかしわれわれは、この日本獣医師会が一つの目標と価値観に向かってこの狂犬病問題に対応しなければ解決はできないと考え、2年間の検討を行っていただき、狂犬病予防注射の接種率の向上、登録を明確にして登録頭数を増やす等のとりまとめを特別委員会で行っていただくことができました。大変有り難いことだと思っております。私は27年度以降は、さらにこういった問題を1つずつ事業化し、解決していかなければならないと考えているところでございます。

この3つの特別委員会の中で、女性獣医師の就業支援につきましては、農林水産省に予算を組み替えて実態調査を行っていただき、明確にその原因を分析していただきました。お聞きしますと27年度にもその対処する予算を付けていただいているということであり、われわれ日本獣医師会の27年度の事業としてこの問題解決に向けてさらに進めていきたいと思っております。

医師会との連携も、地方獣医師会の皆さま方の努力によりまして、この1年間で47都道府県の中に22の地方会同士の協定が結ばれました。私が2013年6月に会長に就任いたしまして、その年の11月に日本獣医師会の横倉会長と日本獣医師会とが学術協定を結びました。翌年10月に日比谷公会堂で両会による狂犬病に対するシンポジウムを開催いたしました。そして今年の2月、岡山の学会年次大会でダニが媒介する感染症に対するこの両会によるシンポジウムを開催することができました。それを踏まえ、今年の5月、スペインのマドリッドで世界医師会と世界獣医師会により初めてOne Healthに関する合同大会が開催されましたが、日本獣医師会の横倉会長と私と2人が出席し、講演を行ってまいりました。わが国に対する高い関心、期待というものを肌で感じた次第であります。

このように狂犬病の問題につきましては、一つの方向性をまとめていただいたわけでありまして、27年度以降、人と動物の共通感染症についてとりまとめる特別委員会の中で、大きく推進していきたいと考えております。

そしてその手段として、マイクロチップの普及推進を図らなければなりません。マイクロチップの普及推進に関する特別委員会もまた設置してまいります。動物愛護管理法が今度の改正でマイクロチップ装着を義務化すると明記されておりますので、確実に法律改正がなされるように、獣医師会をはじめ動物関係団体とともに努力を積み重ねていきたいと思っております。

また、私は学術の振興もきわめて大事であると考えております。獣医学術学会でも、岡山の年次大会等で大変多くの企画がなされ、われわれが抱える今日的な課題について、たとえば獣医師倫理の問題、マイクロチップの問題等、多くの構成獣医師の参加を得て大変な盛況をみたところであり、年次大会が活性化されてきたと思っております。私は、こういったわれわれの活動について常にタイムリーに会員及び関係者の皆さま方に報告する義務があると考え、メールマガジンである「春夏秋冬」で毎月所感を述べさせていただいているところであります。ぜひ、引き続きご覧いただきたいと願うところであります。

今日の総会には、私どもが十二分に審議をいたしました議案を提案させていただいております。皆さま方に慎重なご審議を賜り、原案通りご承認いただければ大変有り難いと思っております。

終わりになりますが、私をはじめ新しい次期の役員が前回の理事会で推薦をされ、本日の総会で皆さま方の承認を受けるわけでありまして、ご承認いただければ、私は27年度に掲げている事業計画を達成するための中期計画を立て、確実な前進を図っていきたいと考えております。

この2年間、私どもとともに執行役員として努力をいただきました近藤副会長、矢ヶ崎専務理事以下、数名の役員の方がご勇退をされるわけでありまして、この場をお借りし、改めてこれまでのご尽力、ご協力に、会長として心から感謝を申し上げます。

それでは、これからの総会の審議をよろしく皆さまにお願いを申し上げまして、会長の挨拶とさせていただきます。有り難うございました。